

# コロナ禍におけるタイの観光の現状と 我が国のインバウンド観光復活に向けた示唆 ～コロナ鎖国を打ち破り、国を再び開くということ～

2021年10月15日 運輸総合研究所 オンライン配信

講師——澤田孝秋 運輸総合研究所アセアン・インド地域事務所  
主任研究員兼次長

コメンテーター——長谷川保宏 帝京大学経済学部観光経営学科教授

## ■開催概要

### 1——タイにおいて観光が果たしている役割

タイは年間約4,000万人の外国人旅行者が訪問する東南アジアの一大観光立国であり、首都バンコク、南部のビーチリゾートであるプーケットなどを多くの外国人旅行者が訪れている。観光関連収入がタイのGDPに占める割合は約20%であり、タイにおいては観光が主要産業としての地位を占めている。観光行政は、観光スポーツ省(MOTS)とMOTSの外局であるタイ国政府観光庁(TAT)が担っており、特に予算規模が大きく、国内外の事務所ネットワークを有するTATがタイの観光振興の司令塔的機能を果たしている。

### 2——新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によるタイの観光への影響

タイにおけるCOVID-19の感染は、第1波から第3波まで3回の流行があり、

2021年10月上旬時点の累計感染者数は約170万人、累計死者数は約1.7万人となっている。また、同時点におけるワクチン接種率は、1回目接種完了者が人口比約50%、2回目接種完了者が同約30%となっている。

2020年第1四半期からタイ経済の落ち込みが見られるが、バンコクで最初のロックダウンが実施された同年第2四半期以降、GDP成長率の大幅なマイナス、失業率の急上昇等経済への顕著な悪影響が出てきている。外国人観光客の大幅な減少により、観光が壊滅的な打撃を受けており、GDPに占める観光関連収入の割合が大幅に縮小している。このような中で、タイ政府は国内旅行振興策等により観光の下支えを図ってきているが、根本的な解決には至っていない。

### 3——再開国に向けた提言 ～タイでの取組みを参考に～(表—1)

①簡単な入国手続き：入国書類の簡素

化、多言語化、代理申請等の方策を講じるべきであり、非感染証明に代え、ワクチンパスポートの導入も望まれる。

②隔離政策：被隔離者の選択と隔離施設間の競争が生じる仕組みの構築や、特色ある観光資源を活かした隔離施設の導入、ワクチン接種完了者に対する隔離期間の短縮(隔離免除)が望まれる。加えて、隔離期間短縮(隔離免除)を認めるワクチンの種類は、自国の承認に拘ることなくWHOの承認を基準とすべきである。

③旅行者への安心の付与：タイで導入されている全国一律で業界横断的な公衆衛生基準(SHA, SHA+)を参考に、統一認証制度の導入と、事業者の側に認証を取得するインセンティブが働く仕組みを構築することが望まれる。

④インバウンド観光復活に向けた取組み：プーケット・サンドボックスなどのように地域を限定してワクチン接種済の外国人旅行者を隔離期間なしで受入れ



講師：澤田孝秋

■表—1 再開国に向けた提言

項目	提言
入国手続き	①心理的ハードルを低くするため、簡素な仕組みを目指すべき ②言語、デジタル等のバリアを乗り越えるため、多言語化、代理申請等の方策を講じる ③非感染証明に代え、ワクチンパスポートの導入を
隔離政策	①被隔離者の選択と隔離施設間の競争が生じる仕組みの構築 ②観光資源を活かした隔離施設の導入 ③ワクチン接種完了者に対する隔離期間の短縮(隔離なしが理想) ④隔離期間短縮(免除)を認める接種ワクチンの種類は、自国の承認に拘ることなくWHOの承認を基準とすべき
旅行者への安心の付与	①全国一律の基準で業界横断的な公衆衛生基準の認証制度の導入 ②事業者の側に取得するインセンティブが働く仕組みの構築
インバウンド観光の復活	①段階的に受入地域を拡大して行くことも選択肢 ②範囲を限定してできる地域からの外国人旅行者受入れを(例：島しょ部など管理のしやすいところ) ③工程表を示すことが、業界・旅行者・自国民へのメッセージとなる

る施策の導入と、段階的に受入地域を拡大していくことを工程表で示すことで、業界・旅行者・自国民への明確なメッセージを発信することが望まれる。

#### 4—最後に

タイ政府はバイオ・循環型・グリーン経済（BCG経済）を国家戦略モデルに据え、強化する4つの産業分野の1つとして観光を位置付ける方針や、持続可能な観光業に向けた改革への助成を目的に新たに外国人旅行者から観光税を徴収する方針を打ち出している。

タイは観光に自国のブランドイメージの確立、プレゼンスの確保、安全保障等、経済効果以外の価値も見出しているものと考えられる。日本が再開国を目指す上でもタイの事例を参考にしてインバウンド観光に新たな価値を見出すことが望まれる。

#### ■長谷川教授からのコメント

タイは2019年実績で外国人受け入れ数が4,000万人弱とアジアでは中国に次いで2番目に多く、世界全体でも8番目となっている。タイの観光業がGDPに占める割合は約20%で、アジアの国の中で



コメンテーター：長谷川保宏

は突出している。さらに国際観光収入では日本の4兆8,000億円に対し、タイは6兆5,000億円と世界4番目の実績であり、タイにおける観光業の重要性が窺える。

COVID-19の打撃の大きさについては、自身がこれまで経験した過去のテロ（バリ島同時爆弾テロ）、災害（東日本大震災）、疫病（香港SARS）からの回復と比べても、明らかに影響が甚大である。

2019年にタイを訪問した日本人は約180万人、一方でタイからの訪日者数は約132万人となっており、双方の人数の均衡が比較的取れており、Two-Wayツーリズムの観点からも望ましい関係にある。山梨県富士吉田市にある新倉山浅間公園、富士浅間神社は、五重塔、富士山、桜が1枚の写真に納まる名所としてタイからの旅行者がSNSで拡散したことでブームとなり、今やタイはじめ国内外で人気スポットとなっている。日本の観光復興に向け、まだまだこういった埋もれている宝を掘り起こし、SNSなどで安全、安心の取り組みと合わせて発信していくことが重要である。

#### ■質疑応答

長谷川教授から澤田主任研究員に対し、①COVID-19が続く中でのタイ政府の今後の施策の方向性、②長期滞在者向けのサンドボックス制度以外に滞在期間が短いアジアマーケットを意識した施策を別途講じることの必要性、③タイが力を入れているメディカルツーリズムに対するCOVID-19の影響について質問がなされた。

澤田主任研究員からは、①経済回復のための外国人旅行者受入れの拡大と感染抑制のためのワクチン接種率の向

上という両面の政策を当面とっていくものと考えられる、②サンドボックス制度は必ずしも長期滞在者のみを念頭に置いた施策とは言い切れないが、自国に戻った場合の隔離期間の長さが海外旅行を躊躇させる原因となっている可能性がある、③外国からのメディカルツーリズムが激減したため、タイ国内の富裕層及びタイに既に滞在している外国人をターゲットとした取組みを病院が強化しているとの回答がなされた。

その後、山内所長をコーディネーターとして、④日本において地域を限定してワクチン接種済の外国人旅行者を隔離期間なしで受入れる施策を導入した場合の問題点、⑤タイの今後の観光政策等について議論が行われた。

澤田主任研究員からは、④沖縄や北海道が候補になると思われるが、特定の地域を特別扱いする取組みであるため平等性を重んじる日本においては難しい側面がある、しかし他国との競争も意識しておく必要がある、⑤COVID-19が観光のスタイルを変えていく可能性があり、これからは少人数で自然を満喫する観光となるのではないかとという観点から、「グリーン」や「循環型」といったキーワードで環境を前面に打ち出す議論がなされているが、具体的な取組みはまだ見えてきてはいない等の回答がなされた。

最後に山内所長より、タイという国が色々な工夫をして観光立国のポジションを守ろうとしている現状がよく理解できた、またタイ政府の政策立案能力の高さを窺い知ることができた、日本にとっても多くの示唆を得ることができたとの全体講評がなされた。

（とりまとめ：澤田孝秋）